
TOKYO FM 開局 43 周年記念式典挨拶 (代表取締役社長 富木田 道臣)

株式会社エフエム東京は、2013年4月26日(金)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM 開局 43 周年記念式典を実施し、代表取締役社長・富木田道臣が、以下の挨拶を述べました。



おはようございます。

43回目の開局記念日を迎えました。先程10名の方々に永年勤続表彰を行って参りました。

1年に1度、開局記念日を祝うことの意義は、我々の原点を改めて見つめ直し、道を切り開いて頂いた先輩や、ご協力頂いた外部の全ての皆様方へ深く感謝し、ありがたい未来を思い描くことにあると思っております。

我々の原点は、55年前の1958年4月25日、東海大学代々木校舎の実験局からスタートしました。受信機も無い中、わずか1kwの電波を発射した日から、開発とチャレンジの歴史が始まったのであります。

1960年には実用化試験局「FM 東海」となり、1970年の今日、「FM 東京」開局まで12年を要しました。

そして本日、激変の中で開局43年を迎えたわけです。

一昨日、24日の取締役会で新体制が内定し、その旨の発表を致しましたので皆さんご存知のことと思いますが、今回が私の社長としての最後の挨拶となります。

思えば、2005年の社長就任以来8年にわたり皆さんに話してきたことは、常に一つのことでありました。

『我々はメディア人であり、「感動の発信源でなければならない」という当社理念のもと、「感動を提供し、共感を得る」という行動指針の実践に徹すること』でありました。

私が目指してきたものは、皆さんが常に社会の変化を素早く捉え、たゆまぬ自己改革による情熱と気迫の行動で、メディア人として新たな価値を提供し続けることであります。

そして、開発と挑戦のDNAのもと、組織の壁を超えて、連携してイノベーションを生み出し、自由闊達で、クリエイティブで、コンプライアンス重視の会社に創り変える事でありました。

一方で、皆さんの協力のもと、当社グループの財務を抜本的に建て直し、健全化をはかって参りました。それは、会社を創り変え、新たな時代に適応能力を持てる会社となるためでありました。皆さんを信じ、厳しいことも求めて来ました。厳しい体験を真正面から乗り越えてこそ人も会社も成長するからであります。

マーケットが縮小する環境下においても、皆さんの努力と行動により、また、外部で我々を支えて頂いた多くの皆様のおかげにより、財務体質は改善され、2008年度より純資産で在京局No.1、2010年度より放送事業収入もNo.1となり、引き続きシェアを伸ばして2012年度も増収増益を達成することが出来ました。グループ経営においても、各社の社長始め社員の頑張りにより全社が2期連続黒字を果たしてくれました。また、ネットワーク各局においても2010年度に赤字社が21社であったものが、JFN全局黒字化キャンペーンを始めた2011年度には9社、2012年度は3社へと大きく改善してきております。

まだ完璧とは言えませんが、新たな時代に適応能力を持てる経営基盤が出来たのではないかと

大変嬉しく思っております。

しかしながら、「社長」というものは、長年続けていると知らず知らずに唯我独尊に陥ってしまうのは歴史が示す通りであります。「社長」は会社のためにあるのであり、社長の為に会社があるわけではありません。私は社長定年に先んじてバトンを渡すことと致しました。

新たに社長をお願いする千代特別顧問は、広告宣伝やマーケティングの幅広い知見と、経営者としての多様な経験と人脈を持っており、先見性と公平さを持つ貴重な人材であります。放送業界の転換期にあたり、新たな血を入れることにより、イノベーションを起こし、小なりと言えども、最も存在感のあるメディアグループにしたいというのが今回の新体制の目的であります。私も会長として全力で取り組んで参りたいと思っております。

さて、デジタル時代にあって、全てのコンテンツがデジタル化する中、アナログ FM だけではいずれ限界がやってきます。我々はマルチメディア放送を始めとする新しい事業開発を実現していかなければなりません。

もう一度原点に戻り、「感動の発信源となる」という当社の理念にもとづき、我々独自のスタンスのもと、オリジナリティのある事業展開が必要なのであります。そのためには我々全員が常にジャーナリストの目と、新しい価値としての文化を育てていく姿勢と、新しいマーケットを創造していく役割を持たなければなりません。

未来を切り開くのは、若い人たちのパワーです。メディア人として「人のために生きる」という使命感をもって、志高く、自らの夢を描いて、イノベーションを起こして欲しいのであります。

振り返って見れば、当社の歴史は開発とチャレンジの繰り返しでありました。当社独自の FM 文化を創り、アースコンシャスやヒューマンコンシャスというステーション・キャンペーンにより、アイデンティティを明確化して来ました。それが 2011 年の東日本大震災の災害報道で、歴史に残る反響と共感に結実した訳であります。我々はいつの時代も使命感を持ち、その都度厳しい時代を乗り越えて来たのであります。

これからの 10 年は、マルチメディア放送を事業化し、大きく花開かせる 10 年となります。昨今の新聞報道などの不十分な情報により、不安に思う人もいるかもしれません。しかしながら、手をこまねいては何も生み出せず埋没するのみであります。新たなメディアは一朝一夕で作られられるものではありません。必ず成功させるといふ全社員の気迫と、不退転の決意で、他業種のパートナー企業と連携し、コンテンツ開発に徹すると共に、収支バランスを構築の上、即ちマーケットから逆算した事業化をはからなければなりません。

こだわりを強く持ち、放送文化に新たな分野を築き、国民の安心・安全をはじめとする、利便性のある多彩な、かつオリジナリティのある情報サービスを実現し、真に心豊かな生活へと誘えるメディアを創り上げたいのであります。

私がこれまで常に願ってきたことは、皆さん一人一人が、自由闊達で、クリエイティブで、コンプライアンス重視の人材として、モチベーション高く自己実現に向けて邁進する姿を見ることのであります。スケールの大きなビジョンを描き、志高く果敢にチャレンジしていく集団でありたいと願っております。

最後になりますが、皆さんがやりたい姿を追求し、様々な事にあたる際には『ビジョン』『ポリシー』『ルール』『ニュアンス』の順にプライオリティを付け、整理して欲しいのであります。例えば社内ルールに拘束されビジョンが実現できないようなことがあれば、ルール変更の提案を堂々とするのであります。また、判断に迷った場合は、『ニュアンス』に留めず、『現象に迷ったら、本質に還せ』と自らに問いかけ、決断して欲しいのであります。

どうぞ「僕のイノベーション」は何か、「私のイノベーション」は何かをいつも心に置いて、みんなで誇りをもてる、オリジナリティ豊かなメディアグループを創り上げて行きましょう！以上であります。

どうもありがとうございました。

以上